

平成 7年 8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

霞川の橋

川は、住民の生活の大きな障害物になっているため、各地に橋が架けられています。橋には色々な名前が付けられていますが、由来は地名のほかに、土地の歴史や橋に対する住民の願いが込められています。多摩川に架かる調布橋・万年橋・神代橋などは、その代表でしょう。

ところで、霞川は青梅市の北東部を流れていますが、下流の今井や藤橋では珍しい名前が付いていますので、橋名の由来を紹介しましょう。

埼玉県との境界に架かっている橋は「金子橋」です。埼玉県入間市側の字名が「金子」ですので、埼玉県側の地名に由来しています。

金子橋から約 200m 上流にある、城ノ腰自治会館の脇に架かる橋は木造で、名前が付いていません。現在は名前が付いていませんがすぐ北側には鎌倉時代から室町時代に付近一帯を支配した今井氏の居城跡があることから、将来、立派な橋になる時には「城ノ腰橋」の名前が最もふさわしいことでしょう。

城ノ腰公園の前に架かっている橋は「大橋」です。現在の橋の長さは約 13m、河床からの高さは約 3 mです。橋のすぐ北側には今井城跡があり、南に進めば「堀ノ内」や「馬場崎」ですから、橋の北には大手門があったことでしょう。大橋も今井城との関係が深い名称です。

大橋の上流の橋は「別当橋」です。別当とは、神様と仏様と一緒に祀る神仏合体の頃には、祭事に従事する人を指していました。かつて、今井堀ノ内児童公園のすぐ東側には稲荷大明神が祀られ、橋の南東に宮司の居住地があったことから、別当橋と付けられたようです。

別当橋から約 250m 上流に架かっている橋は「道場橋」です。道場とは仏教、特に寺宗では寺を指しています。この場合、道場とは七日市場にある正福寺で、正福寺は鎌倉時代に建てられているところから、今井山根の人々が道場（正福寺）に向かうために架けたのでしょう。

浮島天満宮の南西側に架かっている橋は「天神橋」です。50 年ほど前までは無名の丸木橋でしたが、その後、土橋に作り直された際に、現在の名称になりました。

天神橋の西側の、岩蔵街道に架かる橋は「観音橋」で、正確には「観音寺橋」といいます。橋の南にある築地清治氏宅の屋号が観音寺というところに由来するとも、築地氏宅の敷地にかつて観音寺橋を渡る道は、武蔵村山や箱根ヶ崎と原市場や秩父方面を結ぶ「秩父往還」で、室

町時代以降、重要な街道として利用されます。

(文責 角田)

・ 文化財保護指導員会講座のお知らせ

「青梅を知る 映画の夕べ」 講師 川鍋幸三郎先生

8月24日(木) 午後7時から午後9時まで 青梅市民会館4・5会議室

文化財映画『青梅の町屋』の上映と青梅の文化財についての解説

中学生や興味のある方は郷土博物館へお申し込みください。